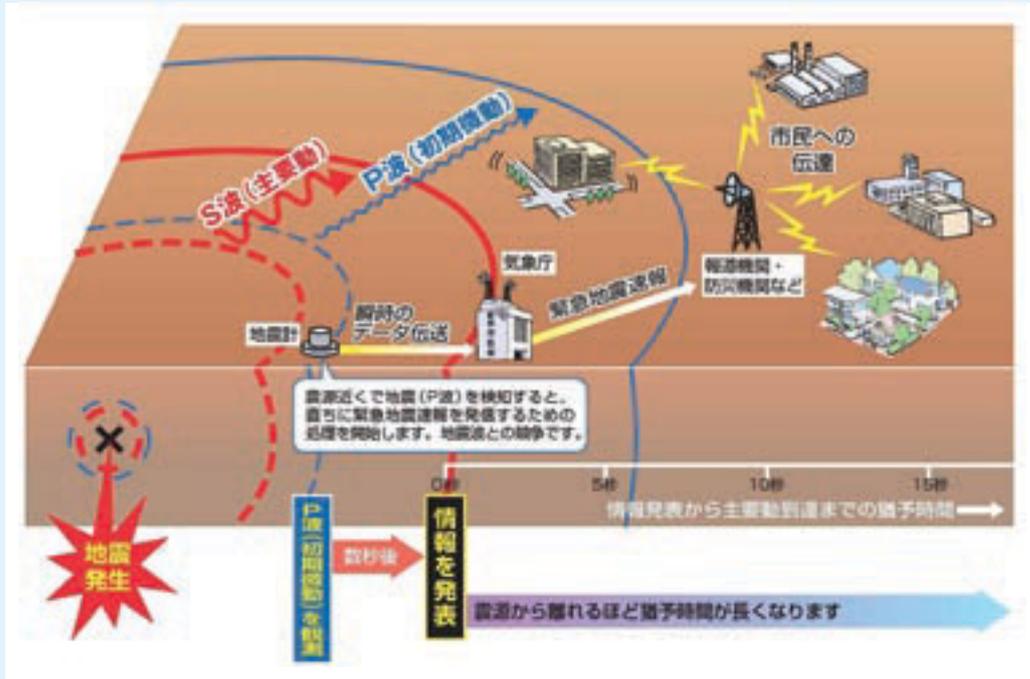


緊急地震速報の有効活用に向けて

緊急地震速報（予報・警報）とは、地震発生直後に震源に近い観測点で捉えた地震波から、直ちに震源、地震の規模を推定し、後から来る強い揺れを予想して、各地の震度を発表するものである。ただし、緊急地震速報を受信してから強い揺れが来るまでの時間は数秒から長い場合でも数十秒程度しかなく、震源に近いところでは強い揺れの到達に間に合わないことがある。



緊急地震速報の発表と伝達

緊急地震速報は、特に地震発生時に走行中の列車を減速・緊急停止等させることによって列車転覆等の被害を防止するなど、その開発当初より、鉄道分野での活用が期待されており、平成18年8月から鉄道事業者などに対し、先行して提供が開始された。平成19年（2007年）新潟県中越沖地震では、首都圏の民間鉄道会社で、緊急地震速報を受信後、緊急停止などの列車制御等を実施するなど、実際に活用されてきており、現在多くの事業者において活用のため整備・計画されてきている。

また、航空機の離発着時の安全への寄与も期待され、主要空港では航空管制において活用されている。

その他、高速道路など、道路交通分野でも、ラジオ等から緊急地震速報を受信することにより、走行中の強い揺れ等への対応が可能となるなど、被害の軽減が期待される。

一方、緊急地震速報は、受信時に適切な行動を取らないと、かえって混乱を生じるおそれもある。特に、自動車運転中にあわてて急ブレーキをかけると、追突事故等を起こすことも考えられる。このため、緊急地震速報を聞いたときには、「ハザードランプを点灯することにより、周囲へ注意を促したうえでゆっくり減速する」など、どんな状況においても「あわてずに、まず身の安全を確保する」ことが重要である。



鉄道交通における利活用の様子

資料提供：小田急電鉄株式会社